### 工事計画に関するヒアリングにおける事前確認 (原子炉冷却系統施設)

令和2年6月8日 新基準適合性審査チーム Dサブチーム

### 〇対象資料名:【原冷】根拠書(原子炉補機冷却系及び原子炉補機冷却海水系)

該当ページ	確認内容
P271,	1) 補機冷却水系熱交換器AD、BE、CFにおける重大事故等時での
系統構成の説明	使用の考え方、使い分けを説明すること。
P 2 8 1~,	2) ポンプAD、BEとCFとでポンプ効率が異なる考え方、使い分け
原子炉補機冷却水	を説明すること。
ポンプ	
系統図	3) 重大事故等時の代替補機冷却水系の使用において、補機冷却水系の
第 4-5-1-3-7~9 図	AD系とBE系とで接続箇所及び接続数が異なるが、どのような系統
	構成で対応するのか系統図を踏まえて説明すること。

### 〇対象資料名:【原冷】根拠書(代替原子炉補機冷却系)

該当ページ	確認内容
P429~,	1) 6. 車両個数は、熱交換器ユニット (P27-D1000、P27-D5000) と組
熱交換器ユニット	み合わせるなら、前に「別の~」を記載すること。
代替原子炉補機冷	2) 伝熱面積が異なる熱交換器ユニットを組み合わせた個数とし「6.
却系熱交換器 (P27-	7号機でそれぞれ2セット2個の合計4個」とのことであるが、1台の
D2000. 3000. 4000)	熱交換器ユニットで SA 時の最大発生熱量の除熱をまかなえるのでしょ
	うか。
	3) 本説明であれば、能力の小さい熱交換器ユニット (P27-D1000、P27-
	D5000) 4個でも良いということになるが、その理解で良いでしょうか。
	必要な組み合わせが必要であれば、型式毎に説明すること。
P 4 3 5~,	4) 本ポンプのQHカーブにおける各揚程、流量を示して説明するこ
熱交換器ユニット	と。
代替原子炉補機冷	5)本ポンプにおける最大の機器・配管圧力損失の算出の考え方を説明
却ポンプ (P27-	すること。
D2000. 3000. 4000)	
₽440~、同	6) 本ポンプにのみマスキングされている理由を説明すること。
(P27-D1000, P27-	7) 本ポンプのQHカーブにおける各揚程、流量を示して説明するこ
D5000)	と。
	8) 本ポンプにおける最大の機器・配管圧力損失の算出の考え方を説明
	すること。また5)との相違について説明すること。

P466,	10)ホース予備の記載では、
10m. 25m. 5	~故障時のバックアップ用として予備6本とし、分散保管する。より、
0 mホース	~故障時のバックアップ用として各ホースを2本ずつの合計6本を予
個数	備とし、分散保管する。
	のほうがわかりやすいため、記載を検討願います。
系統図	11) 系統図の呼び合いで、左上の矢印より、「第4-5-2-3-1図又は第
第 4-5-2-3-3 図	4-5-2-3-2 図より」とあるが、「代替原子炉補機冷却系接続口A系(西)
	戻り側」は、第4-5-2-3-1図しか無いと思うが、又はの意味等を説明す
	ること。
系統図	12)系統図第4-5-2-3-3図と第4-5-2-3-4図との相違箇所は、熱交換
第 4-5-2-3-4 図	器ユニットの海水ストレーナが1つか2つの相違だけでしょうか。
	13)海水ストレーナ2つ付きの熱交換器ユニットは、特別に使用する
	ものなのか(使い分けているのか)説明すること。また、使い分けてい
	る場合、系統図の名称(○○使用時)等で機器の相違を表示できないで
	しょうか。

# 〇対象資料名:【原冷】根拠書(原子炉冷却材浄化系)

該当ページ	確認内容
P466,	主要弁1台、主配管1個を追加する理由を説明すること。(バウンダリ
G 3 1 - F 0 1 7	の拡張でしょうか)

## 〇対象資料名:【原冷】補足(設備別記載事項の設定根拠に関する説明書)

該当ページ	確認内容
根拠書全体	1)補足説明資料について、先行審査プラントから過不足がないか、比
	較して説明すること。
Р2,	2) 熱通過率について、メーカ値とあるがどのように確認したか説明す
(1)必要最小伝熱	ること。
面積	
同上、△Tの式	3)式の記号で、Th1は、Th2ではないでしょうか、確認すること。
Р3,	4)図 $3-1$ 概念図で、熱交換器であること、管側、胴側はどちらか説
図3-1概念図	明すること。
Р3,	5) N:伝熱板有効枚数の考え方について明確にして説明すること。
(2)公称伝熱面積	
Р 3	6) 必要最小伝熱面積と公称伝熱面積との関係について、汚れによる性
(3) 伝熱面積の設	能低下を考慮したとあるが、数値が整合しているか説明すること。
計確認值	